

体であるが、卵径 3.0~5.0 mm の占める割合が最も大きい。これは産卵が近く行なわれるものと考えられる。卵径の頻度分布から推察するとアオリイカの産卵は数回に分けて行なわれるのではないかと予想される。一方イカ類では纏卵腺長の大きさと熟度とは正の相関を示すことから、産卵期推定および産卵に加わるものと考えられる個体の体長について検討するため、纏卵腺長と背套長との関係について調査し、図-5 に示した。

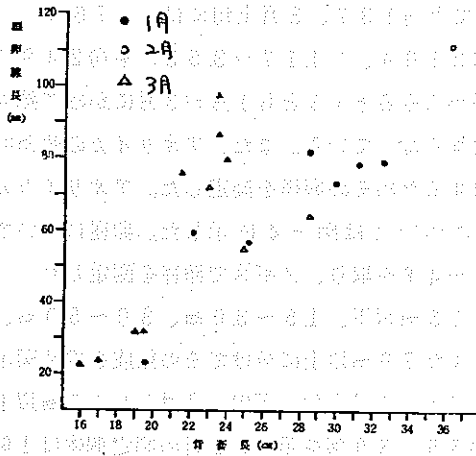


図-5 アオリイカの背套長と纏卵腺長の関係

1月から3月を比較すると1月には纏卵腺長は体長に比例してほぼ直線的な変化を示すが3月には体長 2.1.5 cm を境に急激に増大する。体長 1.9.5 cm の数個体には卵が全く認められなかったことからして産卵に加わる個体の背套長は 2.1.5 以上であろうと推定される。また中城湾では、底曳網により9月および10月にアオリイカ卵の入網がみられた。この様なことから総合すると、アオリイカの産卵は数回に分けて行なわれ、その産卵期は3月頃からはじまり、10月頃まで続くものと考えられる。また、産卵に加わる個体の背套長は 2.1.5 cm であろう。中城湾での産卵場は分布図とほぼ同地域である。

### 3 胃内容物

アオリイカの胃内容物については購入資料による調査を実施した。胃内容物の出現量については表-2 に示した。

表-2 アオリイカ胃内容物の出現量

調査年月日	調査尾数	背套長 (cm)	胃重量 (g)	魚類の骨片・鱗	異尾類	端脚類	ヒラメ科 SP.	長尾類	クマ目類	イカ類	消化物	空胃
S. 48 1. 11	6	18.10 ~ 31.20	2.15 ~ 7.30	+++							+++	
1. 23	5	28.50 ~ 35.0	3.4 ~ 34.0	+								++
2. 15	5	33.50 ~ 36.80	7.0 ~ 28.20								+++	
3. 8	40	13.0 ~ 35.50	0.80 ~ 25.0	++	+	+	+	+	+	+	++	+

※ +++: 調査個体数の 50% 以上出現  
 ++ : " " 30%~50% 出現  
 + : " " 30% 以下

胃内容物には魚類骨片、異尾類、端脚類、ヒラメ類、クマ目類、イカ類が出現した。特に、その中で最も多く出現したのは魚類の骨片であった。その他の種類はわずかであった。異尾類、端脚類、クマ目類等は幼イカの胃内容物にみられた。